

「今、私の晴雨計は！」 (61)

「トリセツの取扱方？」

平山征夫

今、私は二冊の本を前に「なるほどなあ！」とうなっている。「妻のトリセツ」(黒川伊保子著)と「女の取扱説明書」(姫野友美著)だ。

取扱説明書を省略して「トリセツ」と表現するのは、西野カナの「トリセツ」という歌で一挙に広がったようだ。昨年末の紅白でも歌われたそうだが、歌詞をみると妻になる女性が夫になる男性に自分の扱い方を説明している内容だ。「一点物なので返品交換は受けません 急に不機嫌になることがあります 理由を聞いて

ても答えなくせに放つとくと怒ります そんな時はとことん付き合っただげましよう 何でも無い日のちよこつとしたプレゼントが効果的です でも短くても下手でも手紙が一番嬉しいものよ たまには旅行にも連れて行って 記念日にはオシャレなデートを 広い心と深い愛で全部受け止めて これからもどうぞよろしくね こんな私だけだ笑って許してね ずっと大切にしたいね 永久保証の私だから”この歌詞を見て思ったのは「これは28年前日銀支店長の時私が書いた “品質保証書” とそっくりだ」ということと、「このトリセツをちゃんと実行するのは難しいだろうなあ」だった。

“品質保証書”は、この随筆シリーズ「晴雨計その後」の7回目に28年前のものと現在のものを並べて載せてあるが、新潟の友人K氏が40歳で挙げた結婚式での私の祝辞代わりに行った余興だ。“この度は当社の製品をお買い上げくださり誠に有難うございます 少し型は古いですが当社で厳重なる品質検査を行った結果、十分新婚生活に耐えることが判明しましたのでここに品質を保証いたします 何分型が古くしばらく本格使用しておりませんので動かなくなることがあるかもしれませんが その際には叩いたり蹴ったりせず、優しくな

ます なお、お買い上げ後重大なる欠陥が判明した場合でも、返品には応じかねますので念のため申し添えます”と書いて日銀新潟支店長印を押捺した保証書を新婦に手渡したのだ。今は「トリセツ」ブームだ。冒頭挙げた「妻のトリセツ」は、夫が知らない妻の気持ちや行動が解ると言うのでベストセラーとして話題になった。同じ著者に「定年夫婦のトリセツ」もある。定年後女のテリトリーである家庭に夫は入るが、そこは男社会のルールは全く通用しない処、さあどうするべきかが書かれている。もう一冊の「女の取扱説明書」は、心療内科医が医師としての経験から得た知見をまとめた女性全

般のトリセツ本であるが、思い当たることも多く、大いに参考になる。目から鱗だったのは両者が共に指摘しているのが「女性と男性ではそもそも脳が異なる、だから思考が全く違う」ということだ。

そのことは後述する。その前にトリセツ本が沢山あるのに驚いた。

「パパのための娘のトリセツ」、「草食系男子の取り扱い説明書」、

「こじらせ男子の取扱説明書」、「モラ夫のトリセツ」などまである。「出産・育児ママのトリセツ」

という本の解説には「子供が出来て妻が別人になりましたという

貴方へ」とあった。

「女の取扱説明書」は、心療内科医という専門家の立場での分析

ですこぶる参考になった。女性特

有の言動や感情の表れとして次のようなものが挙げられていた。

・話を聞いてほしいだけなのか、アドバイスを求めているのかわからない、

・昔のことを細かく覚えていて「あの時何もしてくれなかった」などと怒る、

・突然怒ったり泣いたりするが、その原因がわからない、

・予定がころころ変わって計画通りに進まない、

・買っても買っても着る服がないと言う、

・どんなに早くから準備しても最後は間に合わなくなる、

・いくら家事を手伝っても「ちやんとやっていない」と怒る、

・男の趣味や夢を理解しない。馬鹿にしたり子ども扱いする、

・メイクや髪型の変化に気が付かないと機嫌が悪くなる、

・記念日をやたらと大切にするとメールのレスが少しでも遅いと怒る、など。

男性ならこの殆どに身に覚えがあるだろう（私も大有りだ）。

その原因について著者は「女性は共感脳で男性は問題解決脳で、男女で考えが全く違う。そのことを理解すれば、対応は間違わなくなる」としている。具体的には、表面上は質問をしているようでも

真相は自分のために確認作業をしているだけで、基本的にはアドバイスはいらない。男性は問題を解決しようと答えを考え意見を言うが、共感を求める女性には何

の意味もない。また、男と女では感情を記憶する場所が異なり、男の記憶はザルを通過するようなものに対し、女性の記憶はバケツに溜まるようなもの。だから一挙に記憶として甦る。女性の愚痴が始まったらバケツ一杯分の愚痴が続くので、BGMと心得聞き流した方がよい、女性はメールを送ったのにおいとかれると悪い事ばかり考え込むので、仕事だと思

ってすぐ返事をするのが良い、などだ。

「妻のトリセツ」はこの男女の脳の違いに加え、保護本能の母性と狩りが役割だった男性の記憶の仕方、視野の違いなども含め、最も身近な夫婦という男女間で生

ずるトラブルについて、主として

夫の立場でどうやって避けるか
アドバイスしている。冒頭、夫の
側の離婚原因のうち、「妻からの
精神的虐待」が二〇〇〇年度は第
6位だったのが、二〇一七年度
には第2位に急上昇している
という指摘には驚いた。「いきなり
切れる 何をしても怒る 無視
する」など「妻が怖い」というの
だ。そういう夫が増えていること
に対し、妻の行動、思考を正しく
理解し、地雷を踏まないよう対応
するコツをアドバイスしている
のだ。例えば、

・特に周産期(妊娠・出産)と授乳
期はそれが強く、この時の記憶は
生涯忘れない、
・妻が求めているのは問題解決の
答えではなく、夫からのねぎらい
と共感、
・買物物は直感で選びたいのが妻、
夫は有効な情報提供をしようと
種々比較検討してアドバイスす
るが妻には参考にされない、
・妻は掃除、洗濯、ゴミ捨て、料
理、生活用品の用意(ex洗剤や
トイレットペーパーを切らさな
い)など見えない膨大な家事に忙
殺されている。家事に男性脳は向
かないが、それでも「お米を切ら
さない」「洗面所の鏡を綺麗にキ
ープする」「寝る前米を研いで炊
飯器に掛ける」など項目を決めて

参加するとよい、
・女性脳は夫に対する不満を一滴
ずつコップに貯めてゆき溢れる
と一挙に切れるので、その前に言
い訳せずに素直に謝るのが良策、
・夫が一生懸命皿洗い、掃除をし
ても「裏に汚れが残っている」「隅
のゴミが取れていない」と文句を
言われる。これは右脳と左脳を繋
ぐ神経繊維の束である脳梁が女
性の方が太く連携が良かったため、目
の前のものが非常によく見える
のに対し、男性脳は奥行認識や空
間認知力が高く遠くや全体は良
く見えるが、目の前の観察力は低
いため。だから妻が髪型を変えて
も気が付かない、
・夫が気付かないうちに妻を傷つ
けている代表的な言葉は「言っ

くれればやったのに」だ。言わな
くても察して欲しいのが女性脳。
このほか妻が絶望する夫のセリ
フとして「だったらやらなくてい
いよ」「つまりこういうことだろ
う」など。時折、使っている。
毎晩の食器洗いと日曜日ごと
の掃除、ゴミ出しは私の家事分担
と思ってやっているが、褒められ
たことはない。むしろ前述と同じ
指摘を良く受ける。ズボンやネク
タイの微かなシミ(私には見えな
い)を見つけてるのは何故かと思っ
ていたので、これも納得だ。さら
に不思議なのは、着ている本人が
あまり覚えていないのに、私の季
節ごとの衣服を覚えていて、衣替
えの度に着る服の組み合わせを
現物を見ないで指摘してくるの

も、女性脳と視線の違うせいなのだろうか。まだ他に男が不用意に地雷を踏んできたことに気付かされる事例と対応が満載だ。一読をお勧めする。

長年、「私の生涯学習の研究テーマの一つに『女性は何故鬼婆化するか』がある」と言ってきた。しかもその答えとしては女性ホルモンの低下によると思っていたのだが、これを読んでわが信念は大いに揺らいだ。不満の記憶が蓄積されてそれが一気に爆発するのだから堪らない。

読み終えてハタと思った。これは妻の特性を正しく理解し、地雷を踏まないように男側が賢く対応するのに大いに参考になる。しかしそれでは妻は女性の本性の

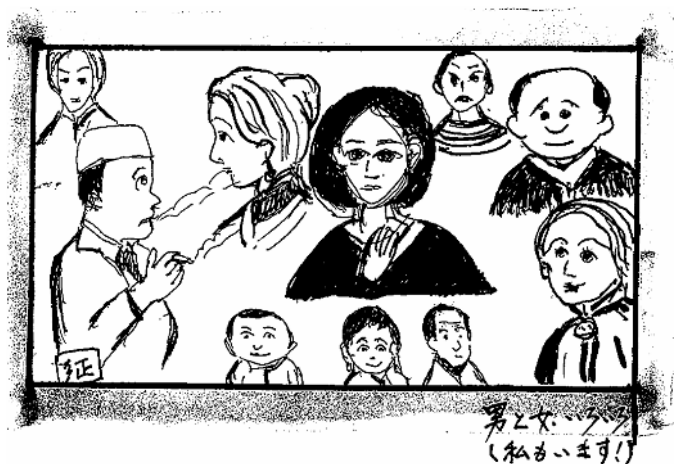
まま暮らすのに対し、夫は気を使つてウロウロするだけじゃないか。逆に「夫のトリセツ」なる本があつて、妻もそれを読んで相互理解を深めるべきだろう。と思つて探したら「仕事も家庭もうまくいく夫のトリセツ」(芦沢多美著)というのが見つかった。これも読んでみるか。

私が思案しているのは、これらトリセツ本の取扱だ。そつと妻の机の上に置くかどうかだ。そうこう迷っている時、いきなり言われた。「本読んだのだったら少しは扱い方上達してよ!」。カバーがついているので安心して机の上に置いてたのを見られていたのだ。

ああ、そうだ。一番大切なこと

を書き漏らしていた。著者によれば妻がガミガミ言うのは、まだあなたと一緒にいたいという証拠。だから言わなくなった時が本当に怖いのだそうだ。ご注意!

(令和元年7月30日)



男と女の心理学
(私がいま)

